

加工・業務用キャベツを中心とした 大規模露地経営体の育成

県央農林事務所経営・普及部門

JA 水戸茨城町キャベツ生産部会の加工・業務用キャベツは全量契約栽培であるため、定時定量出荷が求められています。

当部門では県園芸研究所で開発された「夏秋どりキャベツの簡易な出荷期予測シート」を活用し、定時定量出荷の遵守につなげることができました。また、集中豪雨等の気候変動により発生する生理障害、連作障害等に対応するための品種試験や規模拡大のための水田転換畑でのキャベツ栽培にも取り組み、返品率の低減や販売金額の増加に寄与しています。

加工・業務用キャベツの 出荷期予測シートの活用

予測シートを活用することで収穫適期と収穫量（出荷量）が分かるようになりました。その結果、収穫期前から部会全体の日別収穫量を把握することができ、実需者との事前調整に活用することで出荷量の増加につなげることができました。また、生産者側は収穫量が平準化するように定植日を決めることができるため、収穫遅れ等のリスクの軽減と廃棄率の減少につながり、部会の販売金額は予測シート導入前に比べて5%増加しました。

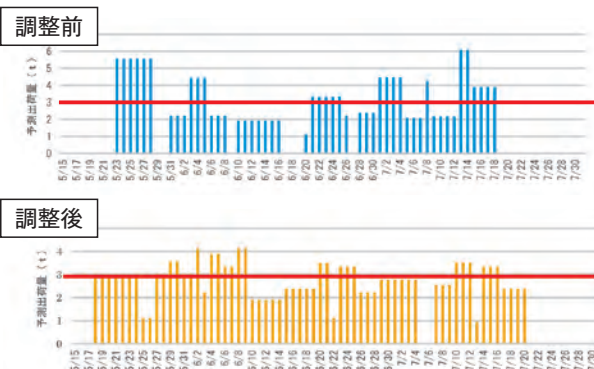


図1 出荷期予測シートを活用した日別収穫量
平準化シミュレーション



写真1 生理障害の例



写真2
生理障害が発生しない6月
月上旬収穫向け選定品種

気候変動に対応した品種の選定

近年の気候変動による集中豪雨等により、生理障害（巻き込み症状、内部黒変症状）が発生しやすくなっています。これらの症状が発生しているキャベツが1玉でも混入すると全ロット返品となり、大幅な減収となるため、気候変動の中でも良品かつ重量確保のできる品種を選定した結果、返品率1%以下を維持しています。

（6月上旬どり、7月どり各1品種）

水田転換畑での安定生産技術の実証

今後、経営発展に向けて機械化を進めていくためには、区画整備の進む水田の活用が求められていますが、水田転換畑での栽培は湿害のリスクがあります。当部門では、農業研究所と連携し、心土破碎や傾斜化による排水対策試験を実施してきました。特にレーザーレベラーによる傾斜化試験では、水田転換畑でも3割増収となる結果が得られ、湿害の軽減効果を確認できました。



写真3
水田転換畑でのキャベツ栽培



写真4
レーザーレベラーによるほ場の
傾斜化